

2023年(令和5年)度 星槎大学・大学院 学位記授与式  
学長式辞

本日ここに、令和5年度星槎大学・大学院学位記授与式を挙げるに当たり、学位取得者の皆さま、並びにご家族、関係者の皆さま方に、本学を代表しまして、心よりお慶び申し上げます。おめでとうございます。

本年度、本学で学位を取得されました方は、共生科学部149名、大学院教育学研究科修士課程27名、同 博士課程3名、大学院教育実践研究科専門職学位課程21名です。

澄み切った青空の下、モクレンの花が凛として咲き誇っていました。皆さま方にふさわしく、門出をお祝いしているようでした。花言葉は「自然への愛」とか「崇高」「忍耐」などだそうです。

さて、星槎大学は、「社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる。」という建学の精神に基づいて、人と人、そして人と自然が共生する社会の創造に貢献することを目的とし、「人を認める」「人を排除しない」「仲間を作る」という共生の考え方を掲げています。

皆さま方は、こうした共生の理念で結ばれた様々な科目を学び、ディスカッションして、自らの課題解決に取り組んできました。

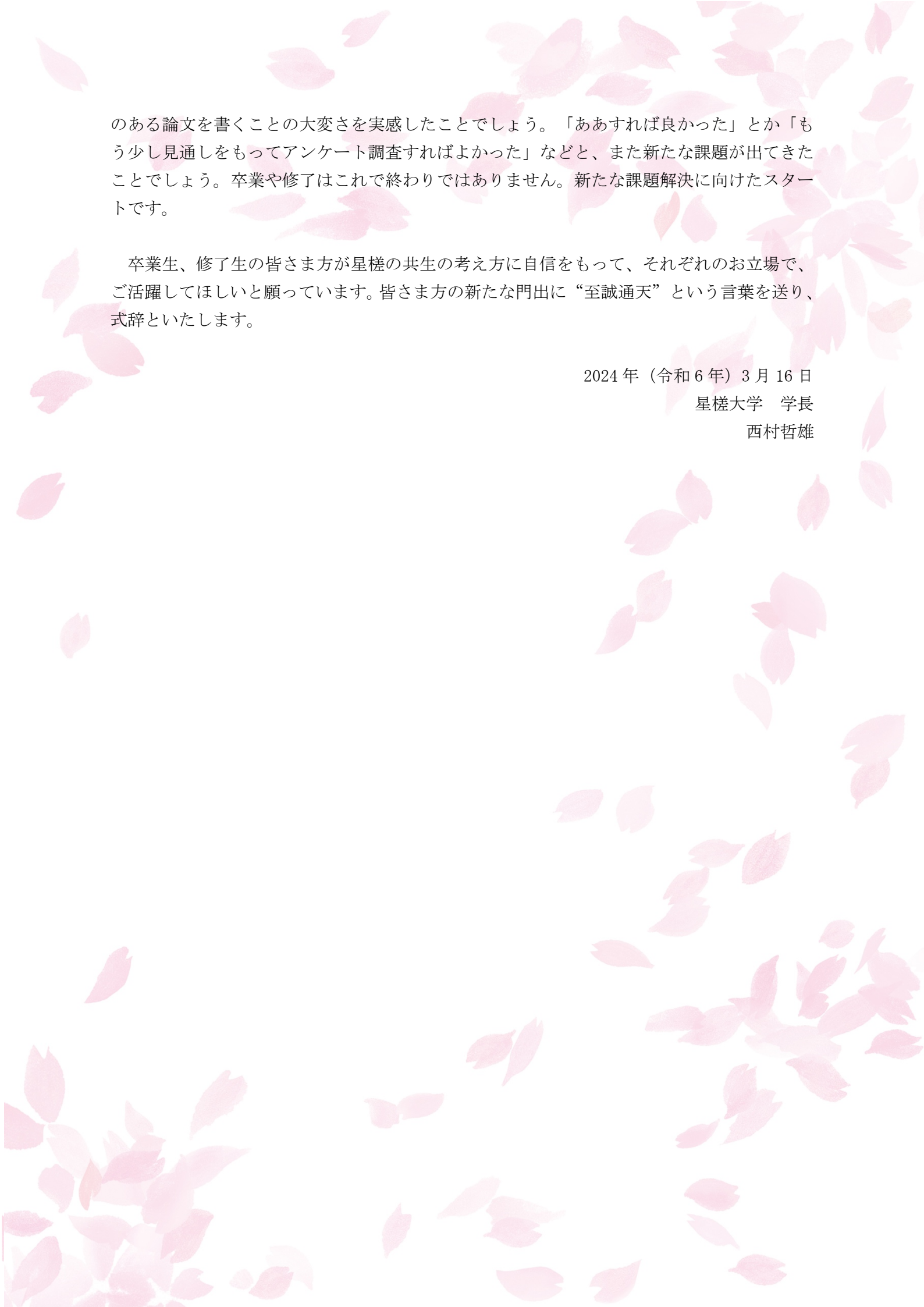
国際社会においては、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルによるガザ地区への空爆と、かけがえのない命が失われ、大変憂慮すべき状況であり、共生の理念とは程遠い状況です。一刻も早く停戦し、平和が訪れることを願わずにはられません。

国内では、元旦に能登半島地震が起き、2か月半が経ちました。M7.6という大変大きな地震で240名の方が亡くなり、住宅は全半壊が7,192棟に達し、避難者は13,962名にも上っています。行政はガス、水道、電気などのインフラ整備、安心して過ごせる仮設住宅の建設に努めているところですが、まだまだ厳しい状況です。

本学では、明日17日に、能登半島地震における「福祉避難所を機能させるためにはどうしたらよいか？」というテーマでシンポジウムを企画しています。能登半島の被災地の現状を東日本大震災、熊本地震のときの福祉避難所の状況も踏まえて報告します。ぜひご参加ください。

さて、皆さまは、星槎大学並びに大学院で、それぞれ自ら主体的に学修に励みました。仕事のスケジュールを調整したり、科目のレポートの締め切りが迫っているのに次のスクリーニングが始まり、またレポート課題が上乘せされる状況でした。

学部の卒業生は共生研究や卒業論文で課題に取り組みました。大学院の修了生は、教育学研究科博士課程、修士課程、教育実践研究科専門職学位課程、それぞれにおいて、現場の課題に向き合い、課題解決に向けて、どのようにオリジナリティを出して世に問うか？説得力



のある論文を書くことの大変さを実感したことでしょう。「ああすれば良かった」とか「もう少し見通しをもってアンケート調査すればよかった」などと、また新たな課題が出てきたことでしょう。卒業や修了はこれで終わりではありません。新たな課題解決に向けたスタートです。

卒業生、修了生の皆さま方が星槎の共生の考え方に自信をもって、それぞれのお立場で、ご活躍してほしいと願っています。皆さま方の新たな門出に“至誠通天”という言葉を送り、式辞といたします。

2024年（令和6年）3月16日  
星槎大学 学長  
西村哲雄